

第2回のまとめ

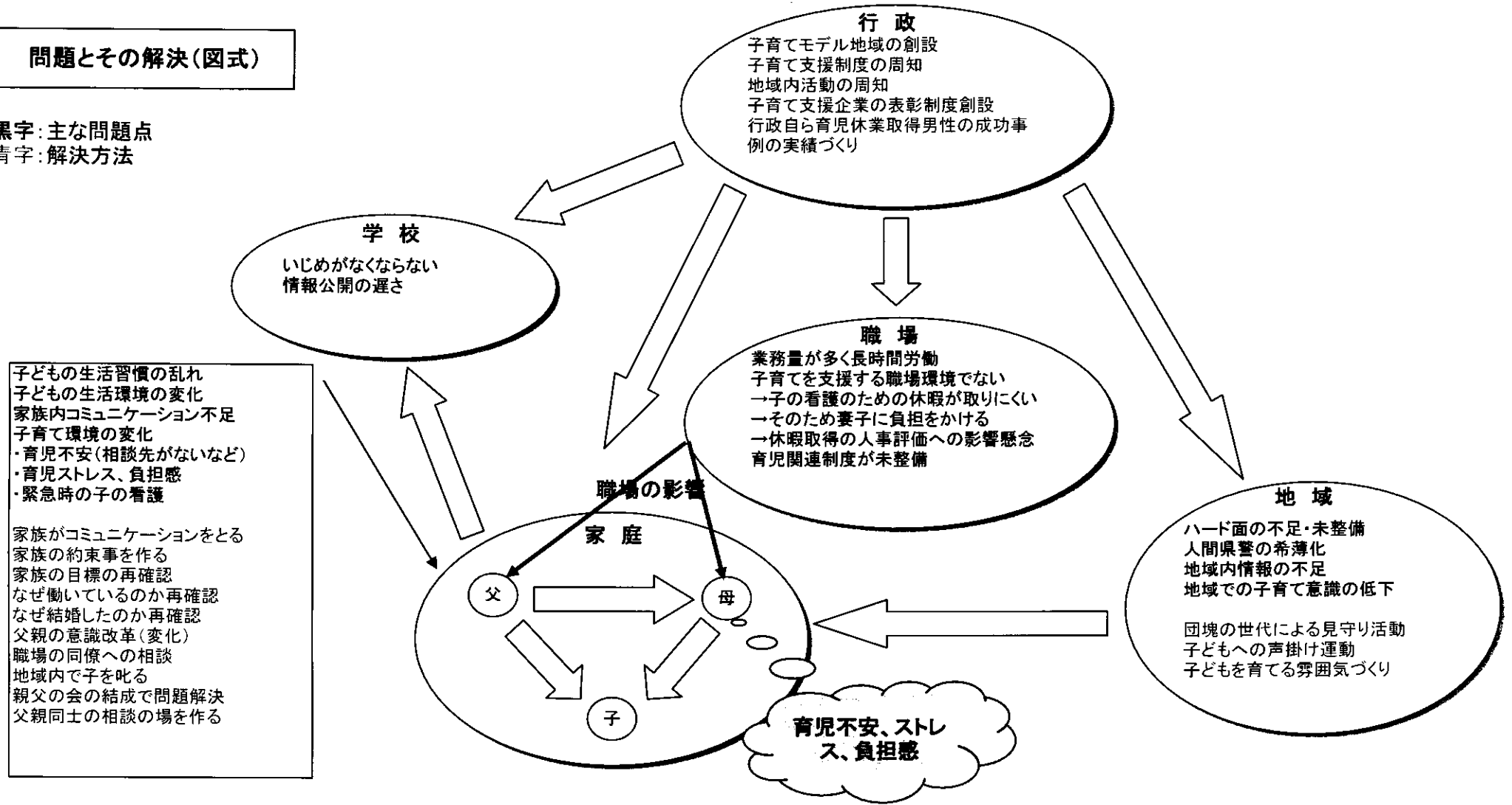
| カテゴリ(地域) | 解決方法(誰がどうする) | | | | |
|---|--|--|-----|-----|--------------------------------------|
| | 問題点 | お父さんが(お母さんが) | 地域が | 職場が | 〇〇が |
| 地域のハード面に関すること ・遊ぶ場所の不足 ・外出時の危険 ・施設の不足・未整備 など | | | | | |
| 地域のソフト面に関すること ・外出時の危険 ・住民の交流の不足、人付き合いの希薄化 ・地域内情報の不足 ・地域での子育て意識の低下(叱らない) | 頑固親父の存在は必要だ。子どもを叱る必要がある場合は、できる範囲で叱るようにする | 団塊の世代の住民が見守り役となる。(←行政がきっかけ、仕組みを作る) 子どもたちへ声掛け運動を実施 | | | 行政が、地域内の活動を、地域住民に知ってもらうための広報活動を充実させる |
| その他 ・子育て支援制度の地域間格差 など | | | | | |

| カテゴリ(職場) | 解決方法(誰がどうする) | | | | |
|---|--------------|--------------|-----|-----|---|
| | 問題点 | お父さんが(お母さんが) | 地域が | 職場が | 〇〇が |
| 仕事量に関すること ・業務量が多い⇒長時間労働 など | | | | | |
| 職場内環境に関すること ・子育てを支援する職場の理解・雰囲気がない結果(特に男性) →病児の看護のための時間(休暇)を取りにくい →その分妻や子に負担がかかる →休暇取得の人事評価への影響を懸念など | | | | | |
| 制度に関すること ・育児に関する制度が未整備の職場がある ・正規・非正規職員間の制度格差 ・育児休業代替職員等の確保が困難 ・育児休業明けの正規職員復帰率が低 | | | | | 行政が子育てを支援する企業を表彰する制度を作る(企業にとって相応のメリットが必要) 行政が育児休業を取得した男性職員の成功例(実績)をつくり、社会にアピールする |

| カテゴリ(学校) | 解決方法(誰がどうする) | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------|-----|-----|-------------------------|
| | 問題点 | お父さんが(お母さんが) | 地域が | 職場が | 〇〇が |
| 「いじめ」がなくなるまで問題が表面化するまで情報を公開しない | 親父の会を作り問題解決を図る、父親同士の話し合いの場を作る | | | | 行政が社会人や退職者を先生に採用する制度を作る |

問題とその解決(図式)

黒字: 主な問題点
青字: 解決方法



【検討結果】

家庭に対しては親子・夫婦の密なコミュニケーションが期待される
父親の家事・育児に対する意識改革が期待される
父親が外に向かって行動(親父の会など)することが期待される
職場に対しては求めるものがほとんど無い(求められない環境)
地域には潜在的な人的財産(団塊の世代)の活用が期待される
行政に対してはあらゆるカテゴリに対する支援が期待されている
(情報の発信、企業への働きかけ、父親の育児休業取得を行政自ら実施)

第3回

- ①これらの意見を踏まえ、お父さんは何ができますか？(具体的に)
・問題があるから解決するといった義務的な行動でないほうがよいのではないか
・楽しみながら継続して実行できることがあればよい
・子どもの年齢に応じてできることも異なるかもしれません
- ②また、そのために行政、地域、企業など周囲の人々が手伝えることがありますか？(具体的に)